

春日井市の高齢者を取り巻く状況

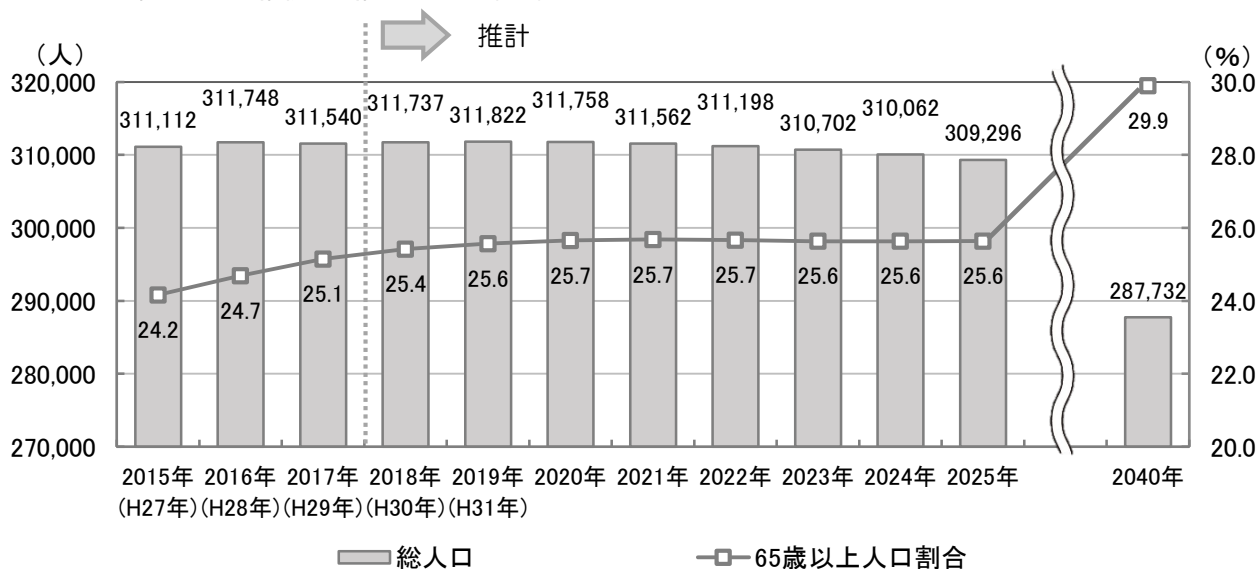
1 高齢者の状況

(1) 人口の状況

本市では、2017（平成29）年には高齢化率が25.1%となっていますが、今後の推計をみると、2021年まで高齢化率及び高齢者人口は増加し、その後は2025年までは、ともに横ばいで推移することが予測されます。

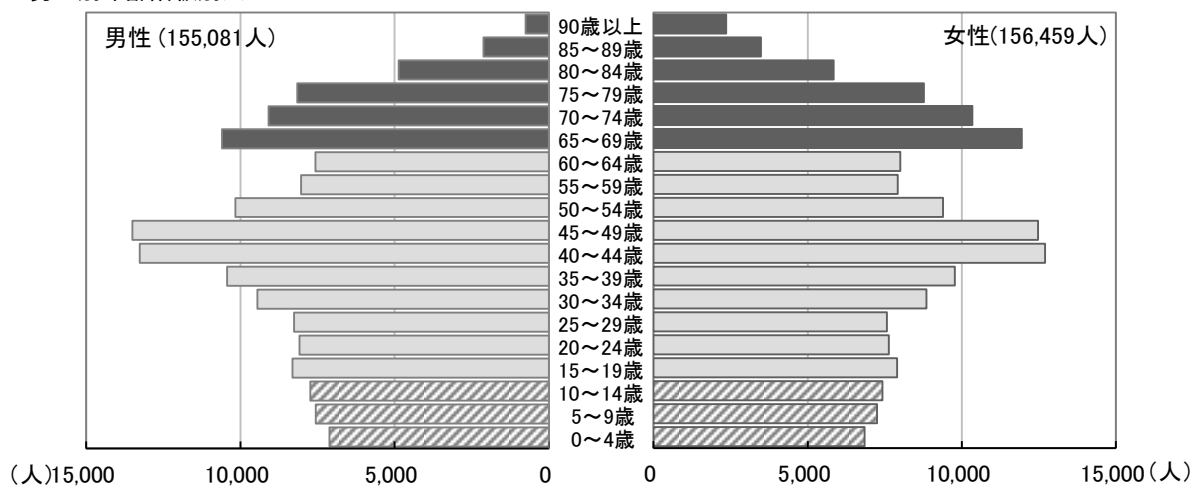
また、2025年以降も高齢化は進行し、団塊ジュニア世代（昭和46年～昭和49年生まれ）が高齢者となる2040年には、高齢化率が29.9%となることが予測されます。

図3 総人口と高齢化率の推移及び推計（住民基本台帳）



資料：（～2017年）住民基本台帳の実績値（各年10月1日）、（2018年～）コーホート変化率法による推計値

図4 男女別年齢階級別人口



資料：住民基本台帳の実績値（2017年10月1日）

表1 人口の推移及び推計(2017年までの実績値と2018年以降の推計)

(人)

年		2015	2016	2017	2018	2019	2020
区分		(H27)	(H28)	(H29)	(H30)	(H31)	
総人口		311,112	311,748	311,540	311,737	311,822	311,758
0～14歳		45,048	44,688	43,922	43,452	43,032	42,654
15～64歳		190,893	190,090	189,284	189,053	189,063	189,130
65歳以上		75,171	76,970	78,334	79,232	79,727	79,974
内訳	65～74歳	43,350	42,890	41,978	41,069	39,593	38,698
	75歳以上	31,821	34,080	36,356	38,163	40,134	41,276

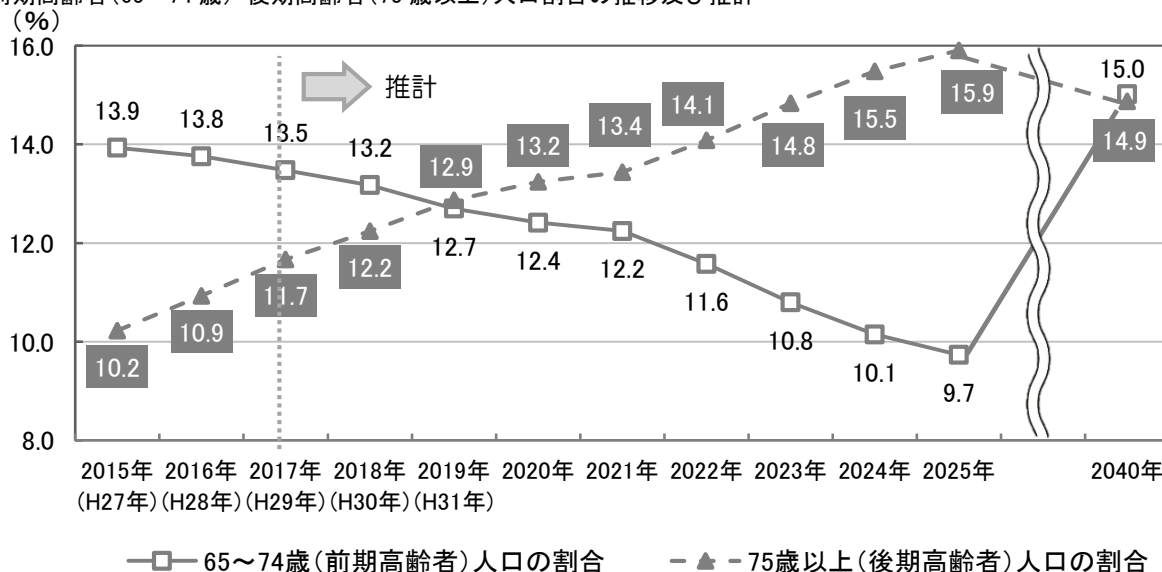
年		2021	2022	2023	2024	2025	2040
区分							
総人口		311,562	311,198	310,702	310,062	309,296	287,732
0～14歳		42,312	41,789	41,247	40,773	40,104	34,117
15～64歳		189,241	189,549	189,815	189,810	189,902	167,605
65歳以上		80,009	79,860	79,640	79,479	79,290	86,010
内訳	65～74歳	38,151	36,030	33,552	31,467	30,103	43,217
	75歳以上	41,858	43,830	46,088	48,012	49,187	42,793

資料：(～2017年)住民基本台帳の実績値(各年10月1日)、(2018年～)コーホート変化率法による推計値

前期・後期高齢者の人口割合の推計をみると、2019(平成31)年には後期高齢者の割合が前期高齢者の割合を上回り、2025年まで後期高齢者人口とその割合はともに増加することが見込まれます。

また、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年には、前期高齢者が後期高齢者の割合を上回ることが見込まれ、高齢者1人を生産年齢人口(15～64歳)の1.9人で支える社会になることが予測されます。

図5 前期高齢者(65～74歳)・後期高齢者(75歳以上)人口割合の推移及び推計

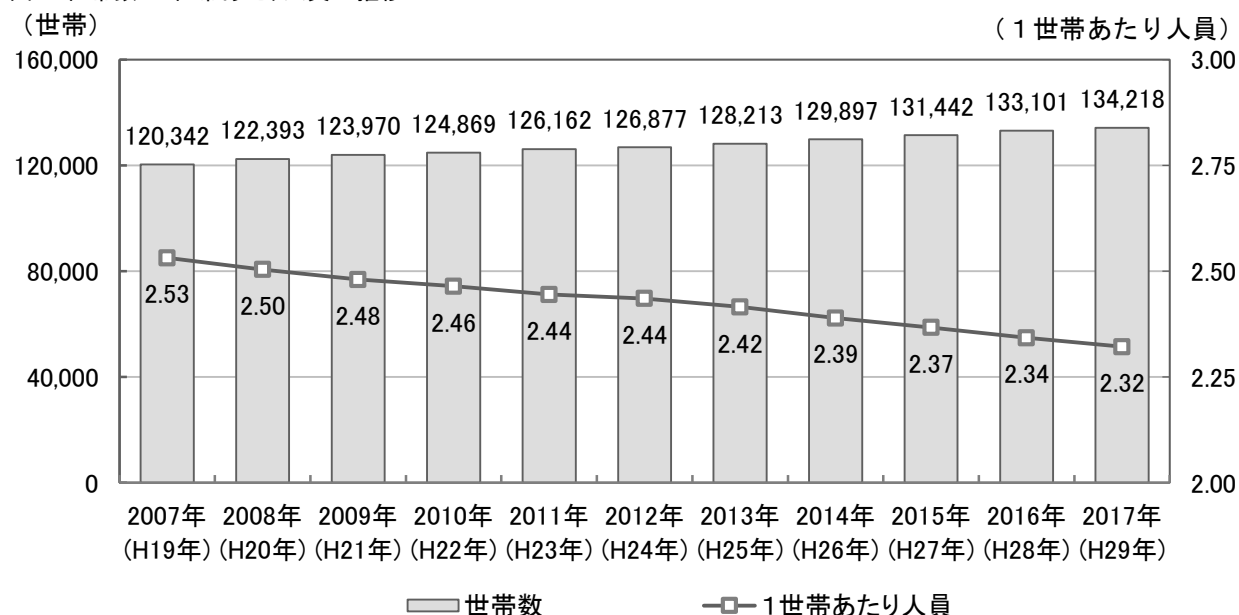


資料：(～2017年)住民基本台帳の実績値(各年10月1日)、(2018年～)コーホート変化率法による推計値

(2) 世帯の状況

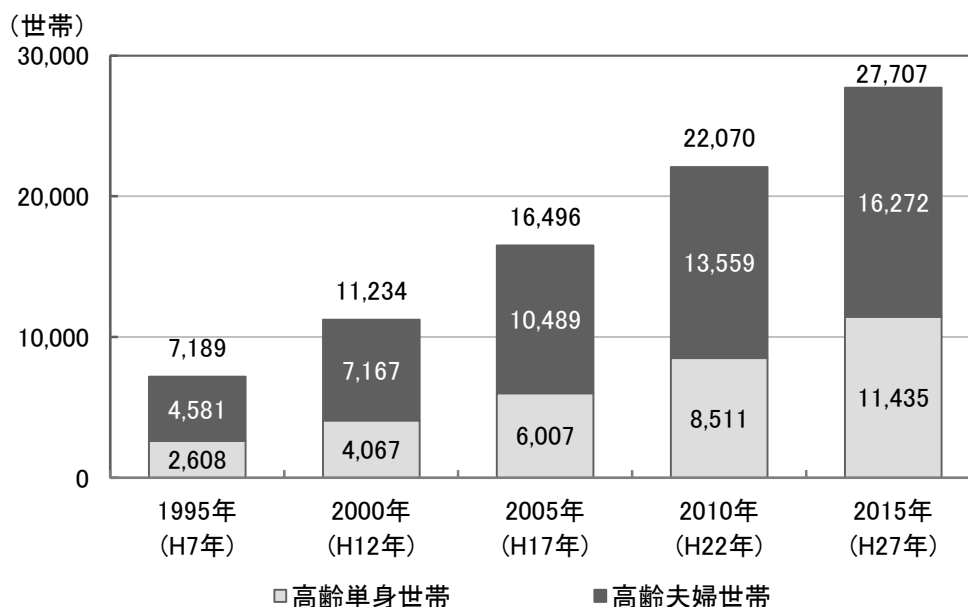
本市では、世帯数は年々増加していますが、1世帯あたりの人員は減少しています。高齢者のみの世帯の推移をみると、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯ともに増加しています。

図6 世帯数と1世帯あたり人員の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

図7 高齢者のみの世帯の推移



資料：国勢調査

※高齢単身世帯は65歳以上の人の一人のみの一般世帯、高齢夫婦世帯は夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

(3) 要支援・要介護認定者の状況

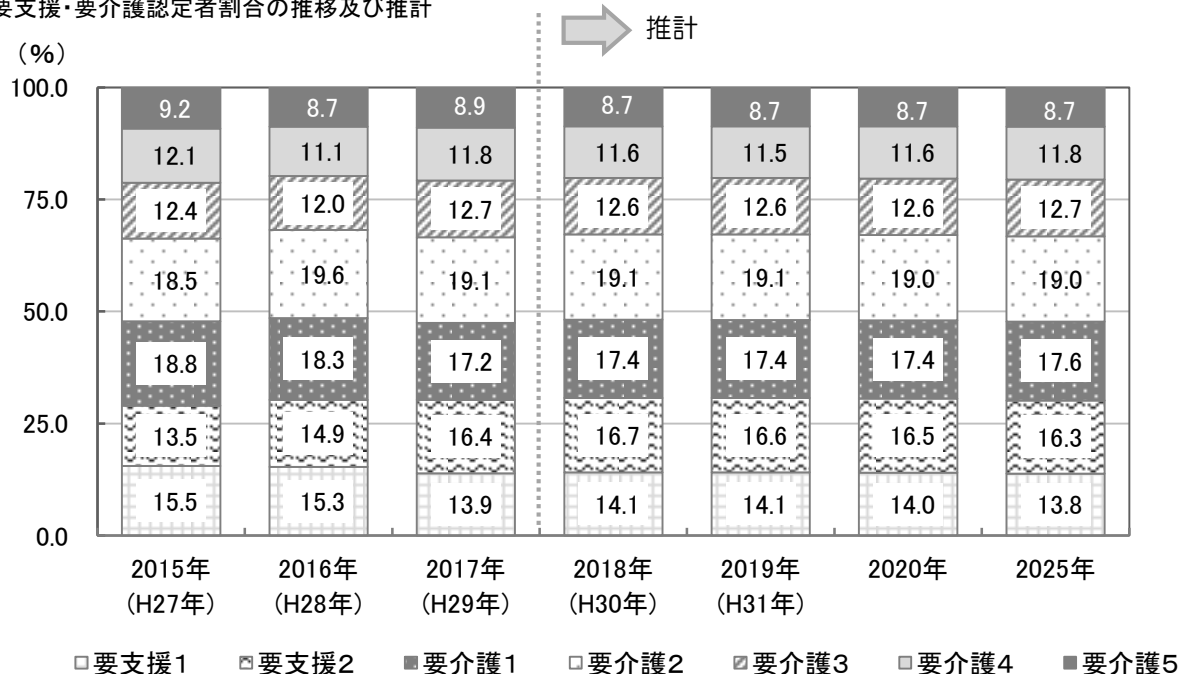
本市における要支援・要介護認定者は増加しており、今後も後期高齢者人口の増加にともない、認定者数及び認定率はともに増加していくことが見込まれます。

表2 要支援・要介護度の区分別認定者数の推移及び推計 (人)

年 区分	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2025
要支援1	1,803	1,851	1,728	1,785	1,867	1,931	2,278
要支援2	1,565	1,801	2,033	2,112	2,205	2,280	2,683
要介護1	2,187	2,207	2,131	2,205	2,308	2,404	2,900
要介護2	2,153	2,368	2,373	2,421	2,532	2,623	3,127
要介護3	1,442	1,451	1,578	1,592	1,671	1,738	2,087
要介護4	1,407	1,337	1,470	1,465	1,531	1,605	1,945
要介護5	1,068	1,053	1,110	1,097	1,152	1,200	1,437
合計	11,625	12,068	12,423	12,677	13,266	13,781	16,457
高齢者人口	75,171	76,970	78,334	79,232	79,727	79,974	79,290
認定率(%)	15.5	15.7	15.9	16.0	16.6	17.2	20.8

※2017年までの実績（各年10月1日）及び2018年以降の推計

図8 要支援・要介護認定者割合の推移及び推計



(4) 認知症高齢者の状況

要介護等認定データから、「障がい高齢者の日常生活自立度」と「認知症高齢者の日常生活自立度」の判定基準をもとに以下の4つの状態像を想定し、要介護等認定者における日常生活自立度の状況を分析しました。

「虚弱」に該当する人は要介護等認定者の36.5%、「動ける認知症」は35.4%、「寝たきり」は6.8%、「動けない認知症」は21.3%となっています。

「動ける認知症」は、徘徊などのリスクが高く、地域での見守りなどのニーズが高い層であると考えられます。また、「動けない認知症」は、重度の要介護認定者となる層であり、1人あたりの給付費が高い層です。後期高齢者人口の増加に伴い、認知症高齢者数も増加していくことが予測されます。

表3 状態像4区分別要介護等認定者の状況

区分		認知症高齢者の日常生活自立度							
		自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M
障がい高齢者の日常生活自立度	自立	虚弱 4,509人 (36.5%)		動ける認知症 4,380人					
	J1								
	J2			3,326人 (26.9%)		1,054人 (8.5%)			
	A1								
	A2								
	B1	寝たきり 840人 (6.8%)		動けない認知症 2,631人					
	B2								
	C1			1,074人 (8.7%)		1,557人 (12.6%)			
	C2								

※2017年10月1日現在

※他市からの転入者は日常生活自立度の情報がないため、除外して集計

※障がい高齢者日常生活自立度B1以上を「寝たきり」、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上を「認知症あり」と判断して集計

※虚弱：寝たきり、認知症ともに該当しない人

※動ける認知症：寝たきりには該当せず認知症に該当する人

※寝たきり：認知症には該当せず寝たきりに該当する人

※動けない認知症：認知症、寝たきりともに該当する人

表4 認知症高齢者の推移及び推計

(人)

区分		年	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2025
日常生活自立度の 認知症高齢者の	Ⅱ		3,769	4,099	4,400	4,534	4,739	4,942	5,953
	Ⅲ以上		2,789	2,713	2,611	3,003	3,142	3,279	4,005
	合計		6,558	6,812	7,011	7,537	7,881	8,221	9,958

※2017年までの実績（各年10月1日）及び2018年以降の推計

※他市からの転入者は日常生活自立度の情報がないため、除外して集計

※認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上を「認知症あり」と判断して集計